

## 「体育心理学」の授業評価

保健体育講座・田中雅人

### 1. 授業の概要

この授業では，体育・運動・スポーツを心理学的側面から研究するための科学的基礎を得ること，体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得することを目的とした。なお，到達目標を，1) 運動の学習と学習過程に関わる主要な概念，および種々の運動学習理論の変遷を説明できる，2) 運動の記憶や知識構造と運動学習との関連性を情報処理論的な立場から説明できる，3) 視覚を中心とした知覚システム，および情報処理の概念モデルを示すことができる，4) 主体的に実験実習に取り組むことができるの4つとした。

3つの到達目標を達成するために，1) 運動学習の過程，2) 学習理論，3) 運動学習の理論，4) フィードバック，5) 運動の記憶，6) 運動の知覚，7) 状況判断の過程の7つの領域について概説した。また，2つの実験実習を行いレポートを課した。受講生は30名で，修得した知識をスポーツ実践や指導に一般化できることを主眼に置いた。授業では，プレゼン用ソフトを使用し，図表，写真，動画，アニメーションなど，その特性を有効に活用できるよう努めた。評価は，レポート（40点），試験（40点），学習状況（20点）とした。

### 2. 授業評価

以下の5領域・16項目に対する5段階評定と自由記述による調査を実施した。各項目の評定の平均値とヒストグラムを示した（図1）。

#### ●理解度

1. 授業の目的は，十分に達成された。
2. 到達目標は，十分に達成された。

#### ●授業内容

3. 授業は，シラバスに則して行われた。
4. 授業の進度・時間配分は，適切であった。
5. 授業のレベルは，適切であった。
6. 授業内容は，役に立つものであった。

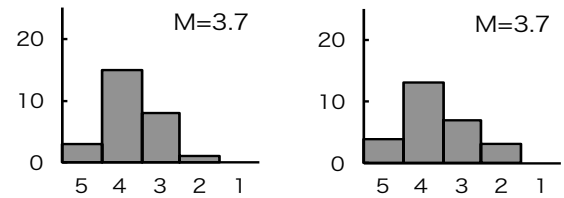
#### ●教授方法

7. 説明は，わかりやすかった。
8. 質問や発言の機会が適切に与えられていた。
9. スライドの使い方は，効果的であった。
10. 配布資料の使い方は，効果的であった。
11. 教員の授業に対する意欲・熱意を感じた。

#### ●受講生の意欲・関心

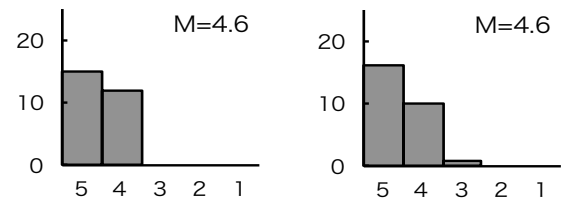
12. 授業に対して意欲的に取り組んだ。
  13. 授業の内容に対して興味・関心があった。
- 評価に関わるもの
14. レポートの課題は，適切であった。
  15. 試験の内容は，授業内容に則していた。
  16. 評価の方法は，適切であった。

図1



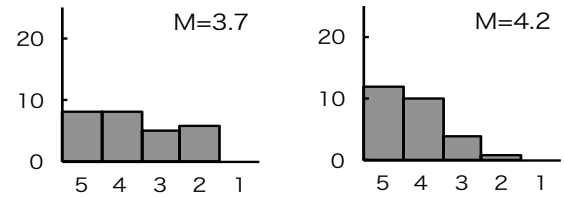
1.目的

2.到達目標



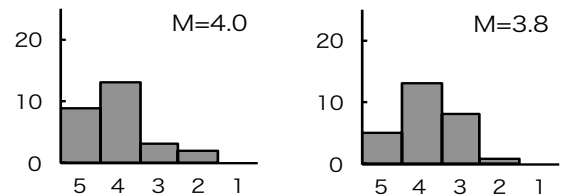
3.シラバス

4.進度・配分



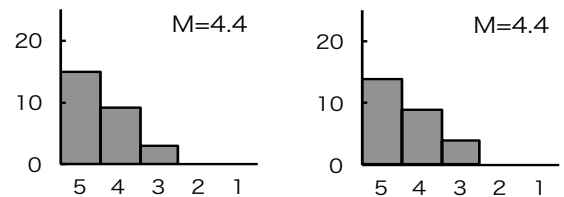
5.レベル

6.内容



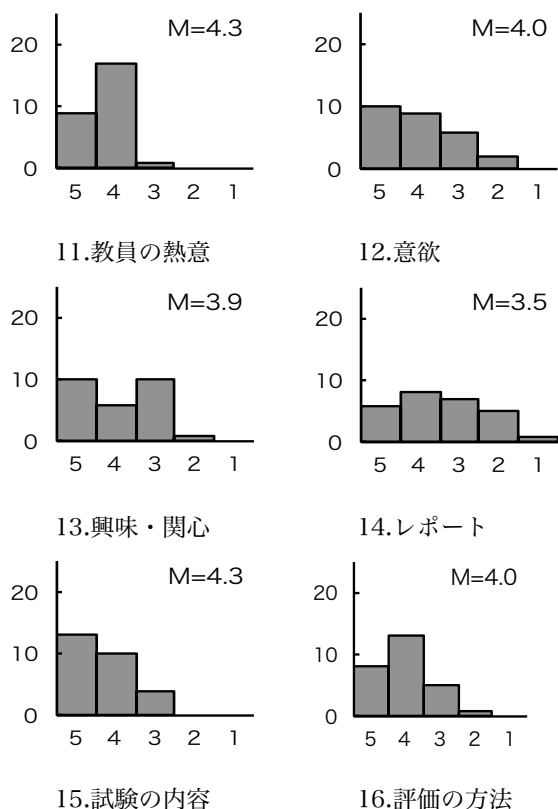
7.説明の仕方

8.質問・発言



9.スライド

10.資料の配付



### 1) 理解度

評定値は3.7で、一昨年よりもやや低い値ではあったが、概ね達成されていた。

### 2) 授業内容

「5.授業のレベル」を除いて、4.5前後の高い評定値であった。特に、「3.シラバス」と「4.進度・配分」の値は高く、授業は、シラバスに沿って行われ、進度にも問題はなかった。また、授業内容は「体育やスポーツ場面での運動行動の理解や指導に役立つ知識を修得すること」を達成するために適切であったと思われる。

「専門的な内容があって、すごく勉強になった」等の記述もみられた。一方、授業のレベルについては、評定値にばらつきがみられ、少し難しく感じている受講生もいた。

### 3) 教授方法

この授業では、板書を行わず、スライドを用い、スライドの内容を資料として配付した。

「9.スライド」、「10.資料の配付」ともに、高い評定値であった。自由記述では、「とても見やすく、わかりやすかったし、視覚的に理解できたのでよかった」、「スライドや動画は、面白いものが多く、惹きつけられるものがあつた」、「授業を楽しく思えるスライド・動画だった」など、肯定的な感想が多かった。また、動画を多用したことが理解を深めるのに役立ったと思われる。「11.教員の熱意」は高かったが、「8.質問・発言」は、他よりもやや低い値であつた。

た。今後は、質問の仕方や発言を促す方法を考える必要がある。

### 4) 受講生の意欲・関心

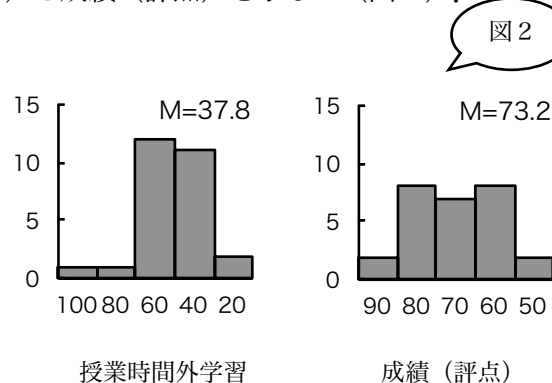
「12.意欲」の評定値は4.0、「13.興味・関心」は3.9であつたが、値のばらつきは大きかった。「面白い授業だった」、「もっと詳しく勉強したいと感じた」という感想がある一方で、興味・関心の高くない受講生がいることにも留意しなければならない。

### 5) 評価に関わるもの

「15.試験の内容」の評定値は、4.3と高い値であつたが、「14.レポート」に対しては、「レポートは難しかった」、「データの処理が難しかった」等の記述がみられ、評定値も3.5と低くあつた。一方、「レポートを課せられることで、授業で行ったことの理解度が深まった」、「データのまとめ方、レポートの書き方を学ぶことができた」等の肯定的な感想もあつた。また、「どのように間違っているのか指導があれば良かった」という記述もあり、個々のレポートへの対応方法を今後検討する必要がある。

## 3. 授業時間外学習の促進

授業時間外に行つた学習の時間（1週間あたり）と成績（評点）を示した（図2）。



時間外学習の時間は、20分～60分であつたが、20分以下や80分以上の学生もおり、ばらつきが大きかった。なお、成績（評点）の分布を示したが、学習時間と同様の傾向となつた。学習時間と成績とを関連づけていないため、断定することはできないが、学習時間が成績に影響を与えていると推測される。時間外学習の内容は、レポートの作成が大部分であつた。他には、Moodleでの課題の提出や試験対策のための復習に使われていた。また、授業では理解できなかった専門用語を関連図書等で調べるなど、発展的な学習を行っている受講生もいた。